

薬事情報センターに寄せられた問い合わせの中から会員の皆様に活用していただけるようまとめました。

薬を服用している場合の献血の可否について（平成23年4月1日より採血基準一部改正）

I. 献血基準

健康な方であれば、献血による身体への影響はほとんどない。しかし、体調をくずしていたり、健康状態の良くない時に献血をすると健康を損ねる場合がある。献血者の健康を守り、また輸血を受けられる方の安全を高めるために様々な視点からの基準が設けられている。

II. 基本的な考え方

薬を服用している場合の献血の可否については、献血者と受血者双方の安全性を考慮する必要がある。

① 献血者保護の観点から

薬剤の種類だけでなく、献血者の病気や健康状態が考慮される。原則として、糖尿病治療薬（インスリン、経口血糖降下剤）、狭心症治療薬、不整脈治療薬、抗血栓薬、抗腫瘍剤等を服用している場合は、献血できない。

② 受血者保護の観点から

多くの薬剤は血液製剤製造中に希釈され、あるいは保存中に分解され、また受血者の血液中で希釈されるので有効血中濃度に達しないことが多いが、薬理作用の強い薬剤については献血不可となる。

▶ 当日服用してよいもの

本来、献血者は健康な人であるべきなので、当日服薬は原則不可であるが、献血者の善意をできるだけ生かすため、軽微な生活習慣病の予防薬などは採血可能としている。

- 漢方薬、ビタミン剤、ミネラル剤、健胃剤、整腸剤などの保健薬
- 花粉症治療薬（ステロイド薬を含む場合は除く）
- 更年期障害治療薬
- 緩下剤
- 高脂血症治療薬
- 高血圧治療薬（単剤で血圧が正常域にコントロールされ、心、腎、血管系に合併症がない場合は献血可能。） 他

▶ 当日服用してはいけないもの

- 睡眠薬
- 鎮静剤（マイナートランキライザー） 他

▶ 前日までの服用で当日の問診が必要なもの

- 消炎酵素剤
- 高尿酸血症治療薬 他

▶ 服用中止から3日間たっており、当日の問診が必要なもの

- 風邪薬、鎮痛薬（症状がない場合や軽い頭痛、生理痛等に頓用した場合は、当日に服用しなければ献血可能。ただし、血小板成分献血の場合、特にシクロオキシゲナーゼを阻害するアスピリンやその他のNSAIDでは服用後3日間はあける。）
- 向精神薬
- 抗菌薬（抗生物質、合成抗菌薬など）

- 抗真菌薬
- 抗結核薬
- 抗ウイルス薬
- 止痢薬
- 非ステロイド系抗炎症薬
- 痛風発作治療薬
- 喘息治療薬
- 事後に服用する緊急ピル 他
- 1ヶ月間不可
 - 免疫抑制剤
 - 治療用ホルモン剤
 - プロペシア
- 6ヶ月間不可
 - 養毛剤のデュタステライド（アボタード）：催奇形性
- 休薬期間にかかわらず不可
 - 乾癬治療薬のエトレチナート（チガソン）：催奇形性
 - 抗がん剤：受血者への影響を考慮
 - ヒト胎盤（プラセンタ）由来製剤の注射薬（メルスモン、ラエンネック等）

プラセンタ由来製剤の注射薬の使用と関連した変異性クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）の発生は報告されていないが、vCJDという病気について解明されていないことが多く、また、現在の科学的な検査では輸血時に検査ができない。そこで、プラセンタの注射薬も、理論上のリスクが否定できないため、vCJDの感染の恐れがないとは言えないことから、vCJDの感染リスクを出来る限り少なくするため、平成18年10月10日より過去にプラセンタの注射薬を使用したことがある方からの献血はできない。
- 疾病の種類や薬の種類によって、献血できない場合がある。また、外用薬、坐薬、点眼または点鼻薬でも、その内容により献血できない場合があるが、その判断は医師が行う。

III. 献血をご遠慮いただく場合

1. 特定の病気にかかったことのある方

- 心臓病
 - 急激な血流変化によって悪影響が出ると予測される方
 - 今までに心筋梗塞、狭心症があった方
 - 弁膜症、心筋症、治療を必要とする不整脈のある方
 - リウマチ熱で心障害の疑いのある方やその予防にペニシリン投薬を受けている方
- 悪性腫瘍
 - 悪性腫瘍の診断を受けて治療中の方
 - 悪性腫瘍の手術を受けた後の方（術後経過が良好でも不可）
- けいれん性疾患
 - 痙攣性疾患のある方（抗痙攣剤の投与を受け、痙攣が抑えられている方も含む）
 - 失神を起こしたことのある方
- 血液疾患
 - 血友病、紫斑病などの出血性素因、再生不良性貧血、白血病、真性多血症、重症貧血等に該当

する方。

- ぜんそく
 - ▶ 時々、発作を起こす方（採血中に発作が起こると事故につながるため）
 - 脳卒中
 - ▶ 現在異常がなくても、脳卒中の原疾患（動脈硬化症など）を考慮し、さらに、採血による影響を考慮して、献血はできない。
 - その他
 - ▶ 慢性腎炎、ネフローゼ症候群、アレルギー性疾患等と診断されている方
2. 妊娠中・授乳中、発熱等の方
 3. エイズ、肝炎などのウイルス保有者、またはそれと疑われる方
 4. 輸血歴・臓器移植歴のある方
 5. 1年以内にピアスの穴をあけた方
 6. 1年以内にいれずみを入れた方
 7. 一定期間内に予防接種を受けた方
 - 接種後 24 時間不可
 - ▶ インフルエンザ、日本脳炎、コレラ、A 型肝炎、肺炎球菌、百日ぜき、破傷風等の不活化ワクチン及びトキソイドの接種を受けた方。
 - 接種後 4 週間不可
 - ▶ おたふくかぜ、風疹、BCG 等の弱毒生ワクチン、B 型肝炎ワクチンの接種を受けた方。
 - 接種後 2 カ月間不可
 - ▶ 天然痘ワクチンの接種を受けた方。
 - 接種後 3 カ月間不可
 - ▶ 破傷風、蛇毒、ガスエソ、ボツリヌスの抗血清の投与を受けた方。
 - 接種後 1 年間不可
 - ▶ B 型肝炎ワクチンと抗 HBs 人免疫グロブリンの投与を併用した方
 - ▶ 狂犬病ワクチン（動物にかまれたあと）を接種された方
 8. 出血を伴う歯科治療(歯石除去を含む)をした方
 9. 海外旅行者及び海外で生活した方
 10. クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の方、またはそれと疑われる方

IV. 採血基準の改正

平成 23 年 4 月 1 日より、採血基準が一部改正された。

1. 献血可能な年齢の拡大
 - 男性に限り、400mL 全血輸血が可能な方の年齢の下限を「18 歳」から「17 歳」に引き下げ
わが国において、10 代から 20 代の献血者数が、この世代の人口減少の速度を上回って減少している理由の一つとして、16 歳及び 17 歳の方は 200mL 全血献血しか協力いただけないことがあげられた。このため、まずは男性に限り、17 歳の 400mL 全血献血の採血基準について、医学的見地からの検証を行い、18 歳及び 19 歳の男性と比較して採血副作用の発生率に有意差がない結果となったことから、採血基準が一部改正された。
 - 男性に限り、血小板成分輸血が可能な方の年齢の上限を「54 歳」から「69 歳」に引き上げ
男性について、医学的見地からの検証を行い、50 歳から 54 歳までの血小板成分献血及び 50 歳から 69 歳までの血漿成分献血の採血副作用の発生率が、他の年代と比べて差がないことから、ま

ずは男性に限り、54歳から69歳まで引き上げになった。ただし、65歳から69歳までの方については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限る。

2. 血色素量（ヘモグロビン濃度）の引き上げ

- 男性に限り、200mL全血献血が可能な方の血色素量の下限値を「12g/dL」から「12.5g/dL」に引き上げ
- 男性に限り、400mL全血献血が可能な方の血色素量の下限値を「12.5g/dL」から「13g/dL」に引き上げ

献血者の血色素量（ヘモグロビン濃度）の分布のデータや、健康診断等に用いられる血色素量の正常値により検証を行った結果、献血者の安全性を考慮して、男性に限り、血色素量の下限値を0.5g/dL引き上げた。

詳細は、日本赤十字社ホームページ、日本赤十字社大阪府赤十字血液センターホームページ参照。

◆ 新しい採血基準

項目 \ 献血の種類	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下 <small>(循環血液量の12%以内)</small>	400mL以下
年齢	16歳～69歳*	男性17歳～69歳* 女性18歳～69歳*	18歳～69歳*	男性18歳～69歳* 女性18歳～54歳
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女とも 50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上			
血色素量	男性12.5g/dL以上 女性12g/dL以上	男性13g/dL以上 女性12.5g/dL以上	12g/dL以上 <small>(赤血球指数が標準域にある 女性は11.5g/dL以上)</small>	12g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上 60万/μL以下
年間献血回数	男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
年間総献血量	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内、女性800mL以内		—	—

*65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限られます。

【参考資料】

- ・日本医事新報 No.4184 (2004年7月3日)
- ・日本赤十字社ホームページ <http://www.jrc.or.jp/donation/refrain/index.html>
- ・日本赤十字社 大阪府赤十字血液センター <http://www.wanonaka.jp/first/kakunin.html>